

テーマ【 身近な環境問題にふれ、生徒が主体的に 環境に対する問題意識を持つ 】

富田林市立明治池中学校

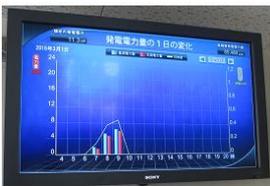
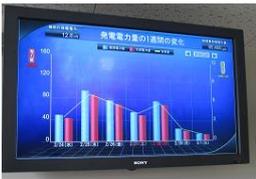
《学習のねらい》

- 二酸化炭素には温室効果があり、地球規模の問題であることを学び、持続可能な循環型社会の重要性について理解する。
- 簡単な太陽光発電システムのしくみを知り、自校に設置された光電気（太陽電池）を活用し、地球温暖化やリサイクルなど環境問題について興味・関心を高める。



《学習の流れ》

実施時期 2学期

	学習活動の主な内容	指導のポイント
1	<ul style="list-style-type: none">• 光電池のしくみや、自校の光電池の発電量を調べる。• 太陽光発電の利点と欠点を知る。• 気象条件により発電量の違いがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none">■ 太陽光発電システムのしくみを知り、環境問題に対する興味関心をもたせる。■ ICTを活用し、データをより視覚的に捉えることができるように支援する。 
2	<ul style="list-style-type: none">• 二酸化炭素と地球温暖化の問題について考える。	<ul style="list-style-type: none">■ 持続可能な循環型社会の形成に向け、「化石燃料を燃やさない」「植物の光合成量を増やす」など、具体的な二酸化炭素を削減する方法について考えさせる。
3	<ul style="list-style-type: none">• 二酸化炭素削減と循環型社会について調べる。	<ul style="list-style-type: none">■ 新聞やニュースなどを調べることで、持続可能な循環型社会の重要性を知らせる。
4	<ul style="list-style-type: none">• 二酸化炭素削減と循環型社会について発表する。	<ul style="list-style-type: none">■ 身近にあるリデュース・リユース・リサイクルについて気付かせる。

《成果（生徒の感想や反応 等）》

- 自校に設置している光電池（太陽電池）は、生徒の意識では、すでに「当たり前の風景」となっているようである。しかし、3年生の理科で改めて取り上げ、実際の発電量について自校のデータを用いて学習を進めたことで、より身近で具体的な問題として感じさせることができた。
- 新聞やテレビなどのニュースで報道されている環境問題について意見や感想を述べたり、環境問題を身近な問題として捉え、こまめに節電したりする様子が見られるようになった。

